

# GRANDCUBE

Osaka International Convention Center

# PRESS

Vol.27 2019 Summer

SPECIAL INTERVIEW

[大阪大学総長 西尾 章治郎]

知の協奏・共創をコンセプトに  
未知なる第4世代の大学を目指して

The Document GrandCube

## IEEE VR 2019

中之島ビジネスフロントライン

京阪ホールディングス株式会社

勿 堂 秘 柏

甲戌夏月  
樂水



SPECIAL INTERVIEW

# 知の協奏・共創をコンセプトに 未知なる第4世代の大学を目指して

大阪大学総長

西尾 章治郎 | SHOJIRO NISHIO

大阪府立国際会議場（以下：大阪国際会議場）を多くご利用いただいている大阪大学。創立時は中之島にキャンパスがあり、2001年には「大阪大学中之島センター」を開設されました。このエリアにご縁が深いことから、広報誌「グランキューブ便り」創刊号では、当時の大阪大学の平野俊夫総長と大阪国際会議場社長の萩尾千里が対談。この度、リニューアル後第一弾の巻頭スペシャルゲストインタビューとして、再び大阪大学の西尾章治郎総長にご登場いただき、大阪大学が目指される姿、大阪国際会議場に期待されることなどについてお話しいただきました。

# 大阪大学が目指すのは、第4世代モデルの大学の実現。

## Opennessで 大阪大学を進化させる

——いつも大阪国際会議場をご利用いただき、ありがとうございます。弊館は多くの大学にお使いいただいておりますが、大阪大学には開館当初から数多くご利用いただいております。

こちらこそ、いつもありがとうございます。おっしゃる通り、本学はよくグランキューブ大阪を利用いたしております。

今でも忘れられないのは、大阪大学が創立80周年を迎えた2011年のことです。当時、私が理事・副学長として、5月1日の記念式典をグランキューブ大阪で行うために準備を進めていた矢先、東日本大震災が発生し、急遽、式典の中止を決定しました。急な決定にもかかわらず、グランキューブ大阪の皆様には言葉に尽くせない程のご配慮をいただきました。そのときの感謝の念は、片時も忘れたことはありません。

次の節目の年は2021年です。この年、大阪大学は創立90周年、2007年に統合した大阪外国語大学は創立100周年を迎えます。その記念式典会場として、ぜひ、グランキューブ大阪を使わせていただきたいと思っています。

また、2021年は、私の現在の総長の任期が満了する年でもあります。任期中に大阪大学をどう発展させるかを考え、総長就任時に「OUビジョン2021」を掲げました。これは「大阪大学憲章」をベースに、本学が目指すべきビジョンを明確にしたもので、「Openness(開放性)」を軸に、Open Education、Open Research、Open Innovation、Open Community、Open Governanceの5つの柱で構成しています。目指しているのは、学問分野間や組織間の壁を取り払って知の交差に挑むとともに、社会の多様な担い手と協働して創造活動を展開すること。つまり、「知の協奏と共創」を実現し、大阪大学を次世代の大学へ進化させたいと考えています。

大学は時代の推移とともに変革を遂げてきました。専門職養成のために古典の教育と研究を重んじた中世から近世の大学モデルが第1世代、研究を重視し研究と教育を一体化させたドイツモデルが第2世代で、現在は大学院制度を設け、社会貢献という使命も備えたアメリカモデルである第3世代のただ中にあるといえます。そして、今日、大学には「イノベーション創出への貢献」が従来よりも増して強く求められており、複雑かつ困難な社会課題の解決のためには、



次なる新たな大学モデル、第4世代への移行が不可欠であると考えています。

産学連携を例にとると、これまでの産学連携は企業等から提示された具体的な課題に対して、大学が持つさまざまな専門的な「知」を統合して、その解決策(How to resolve)を提供してきました。しかし、今や社会の各組織は、解決策の探求以前に、「一体何をすべきなのか(What to do)」、さらには「何故それをするのか(Why we do)」という根源的な課題に直面しています。これからの大学には、社会と大学が共に向かい合いながら、状況を共有し、そのももて新たな課題を見つけ出し、知の融合を図っていく、つまり、社会と知を統合することが求められています。このように社会の組織と一体となって共創により知を育み、「共創イノベーション」を起こしていく、第4世代の大学を大阪の地で世界に先駆けて創っていきたくと考えています。

——そうした革新的な取り組みが、世界で「イノベティブな大学」と評価されているのですね。

そうですね。『Nature Index 2017 Innovation\*』では、イノベティブな大学としては国内1位と評価されました。では、イノベーションに何が重要かという点、ふたつの「D」と考えています。

ひとつは、「Disruption(創造的革新)」です。例えば、サントリーの二代目社長・佐治敬三氏がビール業界への進出を思案していたとき、創業者の鳥井信治郎氏が「やってみなはれ」と背中を押した話はよく知られています。過去にとらわれず、Disruptionを恐れない風土は、関西に根付いていると思います。大阪大学もその精神で、専門分野だけでなく、専門の“境域”を超え、物事の本質を見つめる俯瞰力と、未知で複雑で困難な課題の解決に挑んでいく独創力を育てていく教育プログラムを取り入れています。これも人材育成のDisruptionの一環です。

研究方法のDisruptionとしては、全国に先駆けて設置した「データビリティフロンティア機構」が挙げられます。この機構では、本学の研究や活動から出た大量のデータを有効活用した新たな研究スタイルの確立を進めています。面白いのは、さまざまなデータをクロスすると新たな真理が見つかるんです。例えば、医療・健康データと日常生活の活動データを蓄積・活用する仕組みをつくることで、より豊かで快適な生活を送ることができる社会を創出できるはず。本学はこうした研究の成果を「いのち輝く未来社会のデザイン」がテーマの2025年大阪・関西万博につなげたいと思っています。

もうひとつの「D」は、Diversityです。私が総長就任後、すぐに取り組んだのは「男女協働」です。それを本学の特長である産学共創で実現すべく、ダイキン工業株式会社と国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所と本学がトライアングルを組みました。

まず、取り入れたのは、女性研究者のクロスアポイントメントです。これにより、企業の女性研究者に年間数カ月間、本学に来ていただき、研究や講義をしてもらっていますが、女子学生が女性研究者の姿を見て新たなキャリアパスを見出すなど、取り組みの成果は着実にあらわれています。また、さまざまな取り組みの実施により、1年間で学内の女性教員が増えた数は、国立大学中2年連続でトップになりました。全国の大学のDiversityを向上させるネットワークでは、



## 適塾・懐徳堂の系譜を受け継ぎ、 「地域に生き世界に伸びる」。

大阪大学がリーダーシップを取り、全国のさまざまな良い事例を本学のウェブサイトで公開していきます。

### 地域貢献を続けて、 大阪の町に恩返しをしたい

——大阪大学は、地域活動にも積極的ですが、どのような思いで取り組まれていますか？

地域に恩返しをしたい、という思いです。大阪大学は、その精神的源流を江戸時代の学問所「適塾」と「懐徳堂」に見出すことができます。蘭医学の私塾「適塾」をつくった緒方洪庵の嗣子惟準や弟子らが明治維新时期に設立した大阪仮病院を起点とし、幾多の組織変遷を経たのち、1931年、医学部と理学部からなる帝国大学として本学が誕生しました。

懐徳堂は、大坂の有力町人「五同志」が、誰もが学べる場所として設立した学問所です。講堂は戦災で焼失しましたが、戦後、本学に法文学部が加わる際に、戦火を免れた蔵書類約5万点が寄贈されました。大阪の町に息づいた独創的な学問と思想・文化を、本学が継承することになったのです。

そうした系譜を受け継ぐ大阪大学は、官によってつくられた東京大学や京都大学などと異なり、帝国大学でありながら民間の意思と財源で設立されました。ですから今後も、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに地域貢献を続けたいと思います。

——「クリエイティブ・アイランド・ラボ中之島」では、大阪国際会議場も大阪大学とともに活動しました。今後、中之島ではどのような活動をされますか？

中之島にある、さまざまな文化施設をネットワーク化したいと考えています。その一環として現在、「中之島アゴラ構想」を進めています。これは、「大阪大学中之島センター」を大改修して、産学共創・社会学共創の拠点、アートの拠点にする計画です。同センター南側に設立される「大阪中之島美術館」と歩道橋をつなげる構想もあります。

実は大阪大学の芸術系の教員の陣容は、東京芸術大学を除くと、国立大学の中で抜きん出ているという特長があります。中之島センターには、「市民とともにアート活動をどのように展開するか」につい

て学ぶ学生が常駐できるフロアをつくる予定です。このセンターと近隣の美術館や文化施設とが連携し、本学が持つ技術・学術・芸術の3つの術を用いて、中之島、ひいては大阪、関西の文化の向上に資することになれば、と考えています。

——中之島に位置する大阪国際会議場には、どのような役割を期待されますか？

グランキューブ大阪のある場所は、昔から水運の要衝です。古来より、ウォーターフロントでは革新的な文化が生まれていることから、中之島は、日本の新しいものが誕生する重要な場所と考えられます。本学のモットーは「地域に生き世界に伸びる」ですが、その言葉の如く、グランキューブ大阪も、大阪の町のために市民向けシンポジウムなどを開催することは大切でしょうし、国際会議の誘致も重要です。そのふたつの役割を担い、「大阪」「OSAKA」を活性化していただきたいと思います。

これから大阪でも大きなイベントが続きますね。6月末にはG20が開催されますし、秋には「ラグビーワールドカップ2019日本大会」の試合が行われます。さらに、「ワールドマスターズゲームズ2021関西」、「2025年大阪・関西万博」が開催され、2031年には、新大阪から「うめきた」「中之島」を経由して関西国際空港へ通じる鉄道の新線「なにわ筋線」が開通する予定です。これは、大阪を大きく変えたいと思います。

そのような時代のなかで、グランキューブ大阪がどのような活動をされるのか、に大きな期待を寄せていますし、大阪大学も今後ともに活動を展開し、中之島の地から「大阪」「OSAKA」の発展に貢献できれば、と思います。

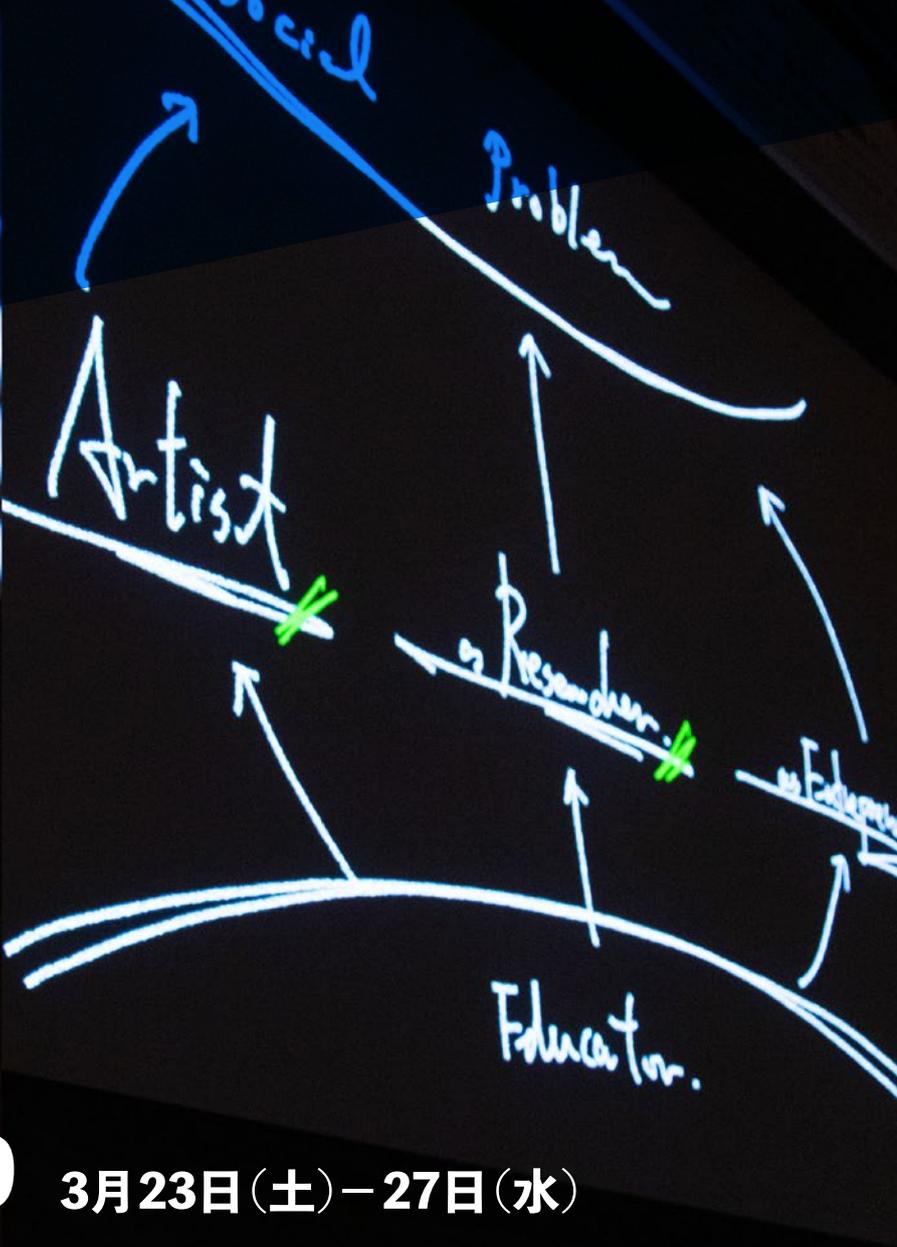
(インタビュー日:2019年5月20日(月))

\* Nature index 2017 Innovation  
世界で最も権威ある総合学術雑誌「ネイチャー」誌による、イノベーションな大学・研究機関の2017年度のランキング。  
研究を行った学術機関自体が保有する特許ではなく、第三者が保有する(学術文献を参考にしている、あるいは引用している)特許を調べることで、製品・サービスの開発に及ぼす研究の影響を明らかにしたもので、大阪大学は世界全体31位、日本国内1位にランクされている。

### 西尾 章治郎 Shojiro Nishio

1980年、京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了(工学博士)。92年大阪大学工学部教授就任後、大阪大学サイバーメディアセンター長(初代)、同大学院情報科学研究科教授、同研究科長、大阪大学総長補佐、同理事・副学長を歴任し、2015年8月に第18代大阪大学総長に就任。その間、文部科学省科学官、同科学技術・学術審議会委員、総務省情報通信審議会委員など政府系の委員を多数務める。2011年紫綬褒章、14年文部科学大臣賞、16年文化功労者など多数受賞。19年第5回国際女性会議WAW!/W20の開会式直後のパネル討論に、アカデミアとして唯一参加した。

# The #02 Document Grand Cube



**IEEE VR 2019** 3月23日(土) - 27日(水)

## 世界40カ国から研究者が集結! ヴァーチャルリアリティ専門の トップカンファレンス

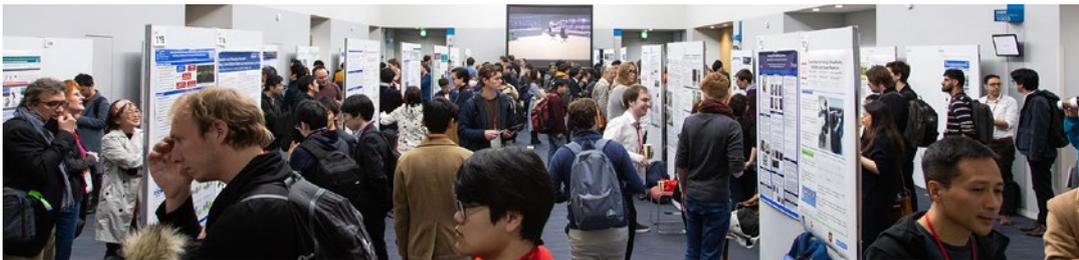
3月23日から27日までの5日間にわたって、「The 26th IEEE International Conference on Virtual Reality and 3D User Interfaces (IEEE VR 2019)」が開催されました。会期中は、世界約40カ国から1000人以上が来場。4つの会議室では140件の口頭発表が行われ、デモ展示やポスター展示など、さまざまな形で最新技術が紹介されました。

### 18年ぶりの日本開催

カンファレンス4日目の3月26日、朝8時を過ぎると、ホワイエや会議室周辺にはすでに大勢の人が集まっていました。展示の準備をする研究者の皆さん、開場を待つ人々、コーヒーを片手に歓談する参加者の方々…。朝早い時間帯にも関わらず、会場は熱気に包まれていました。

IEEEとは、「Institute of Electrical





and Electronics Engineers」の略。「人類社会の有益な技術革新に貢献する世界最大の専門家組織」で、世界160カ国以上に40万人を超える会員がいます。分野はヘルスケアからバイオ、宇宙航空まで幅広く、VRはそのなかでも最大グループのひとつ。1993年にカンファレンスが初めて開催されて以来、ヴァーチャルリアリティ専門の学術会議としては世界最大で最も権威があるとされ、その規模は毎年拡大しています。大会長の清川清教授は「18年ぶりの日本開催となった今回は、参加人数はもちろん、発表件数やデモ展示数、企業展示数、スポンサー数も過去最大規模なんですよ」と説明してくださいました。

アワードセレモニー。10名のProgram Chairによって選ばれた優秀論文が発表され、受賞者によるスピーチ、発表も行われました。

続いて、メディアアーティスト、研究者、実業家といった多くの顔を持つ落合陽一氏が登壇し、「Virtual Reality for Enhancing Human Perceptual Diversity Towards an Inclusive Society」と題して講演。介護現場が抱える問題を解決すべく、AI技術を駆使して開発した車椅子や、機能・身体障がいを持つ人たちのための装置など、共生社会に向けた援助技術の事例を紹介されました。

いました。医師の立場からメディカルCGを手がける東京大学の瀬尾拓史氏は、「Real-Time Virtual Brain Aneurysm Clipping Surgery」を出展されていました。これは、CTやMRIから得たデータをもとに作成した脳の3DCG。モニタ上で、血管や脳を引



張ったり、脳内部の「クモ膜小柱」と呼ばれる組織をバーチャルで切断することも可能です。「今まで手術前に見られなかった脳内部をモニタで観察でき、血管がどのように巡っているのかも一目瞭然。脳動脈瘤クリッピング手術に活用できる」と説明してくださいました。



そのほか東北大学は、魚のエサになって泳ぎ、魚に食べられる感覚を体験できる装置「Be Bait!」を出展。ユニークな発想に、多くの専門家が興味を示していました。

### 基調講演に 落合陽一氏が登壇

清川教授の案内で、10階のメイン会場へ入ると、座席の大半はすでに参加者で埋まっていました。この日の幕開けは、8時30分からの

### ゲーム感覚で体験できる デモ展示が好評

12階では会期中、「3DUI (3D User Interface) Contest 2019」が開催されました。各ブースに設置された装置は簡素なものですが、ヘッドマウントディスプレイを装着すると、空間はたちまち石造りの部屋や火災現場などに早変わり。開発者に誘導されながら、機器を操作したり道具を使って課題をクリアする感覚は、まるでゲームの世界に飛び込んだかのように。参加者の皆さんも、各ブースで革新的な3DUIを楽しみながら、おおいに刺激を受けたようです。

同じく12階では、デモ展示も開催されて





## セミナーやパネル ディスカッションも満席に

10階会議室で行われた、デル社とインテル社主催によるランチョンセミナーも盛況でした。CADメーカーのダストシステム社、トヨタ自動車株式会社など3社が登壇し、生産性を上げるためのVR技術について発



表。満席の会場では、サンドイッチや日本のお弁当を楽しみながら、先端技術の発表に耳を傾ける参加者の方々の姿が見られました。

16時前からは、10階のメイン会場で「Special Panel on the Future of Head Mounted Displays」がスタートしました。パネリストとして、革新的なデザインを開発した4名が登壇。視野の広いVR / ARディスプレイや、何時間も快適に使用できるヘッドマウントディスプレイのデザインなど、未来

の設計への取り組みと課題について熱い議論が交わされました。

その後は、会場を黒門市場に移して、カンファレンスディナーを開催。参加者の皆さんは、ほぼ貸し切りとなった市場内で大阪の食文化を満喫されました。



## 「サポートが充実していることで、大規模な会議の開催も安心です。」

「IEEE VR」の日本開催は、2001年に神奈川県のパシフィコ横浜で行って以来、18年ぶりとなりました。日本のVR研究は、90年代のVR黎明期から欧米と並ぶほど進んでいました。しかし、世間で盛り上がり始めたのはこの数年のことで、2016年ようやく「VR元年」といわれるようになりました。会議の規模が急激に大きくなったのも、その頃からです。一昨年、米国・ロサンゼルスで開催した際は約600人が、昨年のドイツ・ロイトリンゲン会場には約700人が参加しました。今回の日本開催は年度末とあって、多くの参加者を集めるのは難しいと考えていましたが、4日目で予想を遙かに上回る約1070人が来場しています。

今回は、私が大会長に指名されたこともあり、関西で会場を探すことになりました。大阪国際会議場を会場に選んだのは、梅田から近く、中之島の風景も含めて立地が魅力的だったからです。当初はホテルでの開催も検討していましたが、規模が大きくなることを見越して、融通がきき、サポートが充実している大阪国際会議場に決めました。

期待通り、今回は過去最大規模の会議となりました。口頭発表は

昨年の4割増しの140件。2年前まではシングルセッションでしたが、今回は初めて4パラレルで実施しました。ポスター発表は最大だった昨年に比べて倍増し、企業展示やスポンサー数も史上最多です。

今、VRは盛り上がっています。その技術はゲームだけでなく、医療や建築などにも広がり、ようやく本当の意味で活用され始めています。また、これまでのVRの開発はシーズ志向でしたが、今はニーズ志向にシフトしつつあります。

今後、VRが活用される分野は爆発的に広がるでしょう。その流れに乗り遅れないよう、VR研究をさらに盛り上げていきたいと思えます。

奈良先端科学技術大学院大学  
先端科学技術研究科 情報科学領域  
サイバネティクス・リアリティ工学研究室  
清川 清 教授



# EVENT INFORMATION



グランキューブ大阪で今後開催予定のイベントをご紹介します。

イベントカレンダー  
<https://www.gco.co.jp/event/>

## COMING-UP [開催予定]

2019. 7/13-15

### 第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会

心リハイノベーション -行動医学からICTまで-

Welcome to Asian Gateway Osaka

心臓リハビリテーションを中心とする循環器、動脈硬化予防および健康長寿はいまや人類共通かつ最大のテーマになってきました。予防医学は、薬剤のみならず運動から栄養、心理まで幅広く研究され確実なエビデンスを重ねてきています。

心臓リハビリテーションはグローバル医療として全世界で推進されています。日本の現状を世界に発信、新たな知見を海外からもいただくために、ヨーロッパ、アメリカ心臓リハビリテーション学会とのジョイントセッション、アジア各国とのAsia PReventも開催します。

皆様のご参加、ご協力を心よりお願い申し上げます。

[第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 会長 木村 稔]



2019. 7/23

### 産業オープンネット展 2019

工場の生産現場で働くネットワーク技術の展示会

工場の生産現場で稼働するさまざまな装置、機器のデータ・情報を簡単に、効率よく、そして安定して通信させることで工場のオートメーションは発展してきました。

産業オープンネット展は産業用ネットワーク技術をプロモーションする10の協会が共催団体となり、これらの技術に基づく機器をマーケットに提供する50以上の会社と一緒に、セミナーとデモを通して、産業用ネットワークを使うメリットを説明する展示会です。

IoT、Industry 4.0などの新しいオートメーションの形を通信というカテゴリから概観されたい皆様のご来場をお待ちします。

<http://www.open-networks.jp/> [産業オープンネット展準備委員会]



2019. 7/29-8/1

### 第22回画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2019)

コンピュータビジョン・パターン認識の国内最大規模の会議

画像の認識・理解シンポジウム(MIRU)は、画像の認識と理解技術に関する国内最大規模の会議です。研究者、技術者、そして次世代を担う学生の議論・交流の場であり、基礎から応用まで最新の研究発表と討論の場です。第22回の開催となるMIRU2019は、交通アクセスのよい大阪で開催いたします。著名研究者による特別講演、最先端技術に関するチュートリアルなど、魅力的なプログラムとなっています。多くの皆様のご発表・ご参加をお待ちしています。



<http://cvim.ipsj.or.jp/MIRU2019/>

[第22回 画像の認識・理解シンポジウム実行委員会 実行委員長 長原 一]

2019. 9/12

### たまゆらフェスタ2019

ユニフォームを通じて働き方改革を実現し社会貢献につながる展示会!



高視認性安全服で夜間の事故を減らし交通安全を提案します。また、墜落制止器具で高所作業での事故防止を提案します。そしてユニフォームや作業用品50社だけではなく、弊社の様々な業種のお客様や地域団体も50以上出展し、それぞれの視点で働き方改革を提案します。飲食ブースやステージ企画・体験型企画など、是非この機会に「働き方改革」を実現し「社会貢献」につながる新しい商品・サービスをお手にとっていただき、その効果を体験していただきたく、皆様のご来場を心よりお待ちしております。

事前申込

[http://web-edi.com/festa\\_tama/](http://web-edi.com/festa_tama/)  
<https://tama-photo.com/>

[株式会社たまゆら 総合企画本部 経営企画部 広報グループ 課長 宮田 葉子]



5/31 [金] 13:10-14:40

## 大手前大学「出張授業」実施

大阪国際会議場では、社会貢献活動の一環として、社員が直接大学に出向き講義を行う「出張授業」に取り組んでいます。去る5月31日、大手前大学現代社会学部にて「EC概論」の授業を弊社営業部営業課課長の川井正治が受け持ち、「大阪国際会議場の現状と課題について」のテーマの下、90分間の講義を行いました。授業では、映像による大阪国際会議場の紹介に始まり、経営理念、「OICC WAY」と題する弊社の仕事に対する取り組み方を紹介。続けて、会場内の施設及び社内組織について説明し、その後、質疑応答が行われました。授業には同講義を受講する多くの学生の皆さんが出席。資料を手に熱心に聞き入る姿が見られ、また活発な質疑応答がなされました。



弊社では、今後もこうした「出張授業」に積極的に取り組み、MICEビジネスへの関心の喚起、また将来この分野に進みたい若い世代への情報提供と支援に努めて参ります。

6/2 [日] 10:00~/13:30~

「キテ・ミテ中之島」関連イベント

## 「親子でグランキューブ大阪探検ツアー」開催

去る6月2日(日)、中之島エリアで毎年実施される「キテ・ミテ中之島」の関連イベントとして、「親子でグランキューブ大阪探検ツアー～みんなでつくるゲンキflag(旗)！～」が開催されました。親子で参加する中之島駅のアートツアーとグランキューブ大阪のガイドツアーそして旗を作るワークショップのすべてが楽しめるという、午前の部に10組25名、午後の部6組18名の親子の皆さんが参加されました。みんなで作ったゲンキFlagには、グランキューブ大阪のマスコット「キューブくん」やグランキューブ大阪の建物を描いてくださったお子さんも。1階プラザでは素敵な歌声のミニコンサートと、みんなで作った旗の掲揚が行われ、ご近所の方も見に来られるなど、子どもも大人も感動のイベントになりました。



～開業20周年記念事業～

## 中之島通りに花壇が登場

グランキューブ大阪西側の中之島通りに面する正面入り口付近に、3月末、開業20周年記念事業の一環として花壇が竣工しました。花壇には鮮やかな四季折々の草花が植えられ、グランキューブ大阪への来館者はもちろん、地域の方々や歩行者の皆さんにも楽しんでいただけるよう、年6回植替えを行います。完成後は、小さいお子さん連れの方々や立ち寄り、お子さんにお花の名前を教えたり、写真を撮ったりして楽しんでおられる姿が見受けられました。



8/26 [月] 17:00-21:00

イベント告知

## 「中之島なつまつり2019」開催予定

今年もグランキューブ大阪1Fプラザと中之島バンクスを会場に、恒例の「中之島なつまつり」が開催されます。開催内容は、河内家菊水丸をゲストに迎えての盆踊り大会をメインに、市民ボランティアによる音楽等のパフォーマンス、さらにリーガロイヤルホテルをはじめ、中之島周辺の人気飲食店等が出店するグルメ屋台の出店など盛り沢山。仕事帰りの平日の夕方、「まちなかで ゆかたきて ぼんおどり」を多くの方々を楽しめます。涼しい風のそよぐ夕べ、そぞろ歩きで往く夏を楽しむ中之島ならではの水辺のイベントに、どうぞご期待ください。



【中之島なつまつり2019公式サイト】  
<http://nakanoshima-natsumatsuri.jp/>



## 地域との連携を強めて 中之島を魅力あるエリアに

—京阪ホールディングス株式会社—

中之島の著名企業・施設を大阪国際会議場社員が訪問し、その歴史や活動を紹介する「NAKANOSHIMA BUSINESS FRONTLINE」。第2回目は、中之島の企業や施設を巻き込み、このエリアの活性化を牽引されている京阪ホールディングス株式会社（以下：京阪HD）経営統括室事業推進担当・岡田洋課長に、営業部誘致開発課長の池本奈穂がお話をお伺いしました。

「キテミテ中之島」開催会場一覧



### 「キテ・ミテ中之島」を主催

**池本** この度は、お時間をいただきありがとうございます。京阪HDさんより、今年初めてお声をおかけいただき、駅から始まるアートイベント『キテ・ミテ中之島』に参加しました。今回は8回目ということですが、このイベントを始められた経緯をお教えいただけませんか。

**岡田** 2008年、京阪電気鉄道の新線として、中之島エリアを東西に走る京阪中之島線が開通しました。中之島が持つ「文化・芸術の地」



というイメージの発信を目指し、新線開通を機に何か始めてみよう、ということでスタートしました。

**池本** 現在は、中之島の企業を巻き込んだ大規模なイベントになっていますが、当初はどのように展開されていたのですか？

**岡田** 現在よりも規模は小さく、中之島駅だけの展示でした。それが、なにわ橋駅、大江橋駅、渡辺橋駅、中之島駅の4駅の構内での作品展示となり、回を重ねるごとに広がりを見せました。主催は、京阪HDと中之島高速鉄道の2社で、「DESIGN DOT」の玉登ゆかりさんに企画運営をお願いしていました。4回目からは私が関わるようになり、地域を巻き込んだイベントに発展していきました。

**池本** 今年は弊社にお声をおかけいただき、ありがとうございます。作品展示は社内でも好評で、常設してみても、という声も上がって

います。

**岡田** そう言っていただけると嬉しいです。実は、大阪国際会議場さんは敷居が高いと感じていたのですが、まさか快諾して下さると思っていませんでした。近年は、多くの企業さんや施設さんにご協力いただいたおかげで、規模が大きくなり、内容も多彩になりました。以前、電車の中で作家さんがワークショップを行って作品を作る「アート電車」を樟葉駅から中之島駅まで走らせた時は、参加者の皆様に好評でした。また、駅構内にはお子さんの作品を展示しているので、ご家族で見に来られる方も多く、喜ばれていると感じています。

**池本** 中之島はビジネス街なので、このイベントをきっかけに中之島駅に初めて降りたというお子さんは多いと思います。イベントを通して、中之島の魅力が伝わるといいな、と思っています。

アートや文化で地域に貢献

**池本** 京阪HDさんとは、「中之島なつまつり」で実行委員として一緒にしていますが、他にもさまざまな活動をされていますね。

**岡田** はい。現在は、大阪城、地元の各自治体と協働で、京街道の文化・歴史を再発掘する事業や、関西の私鉄と連携して各沿線エリアの魅力を発信し、お互いの顧客に行き来して

もらえるような企画を進めています。中之島エリアでは、弊社と大阪大学さん、NPO法人ダンスボックスさんとで共同運営しているなにわ橋駅構内のアートスペース「アートエリアB1」でフォーラムなどを開催しています。また、開業当初から、中之島エリア、さらに弊社の



京阪ホールディングス株式会社  
経営統括室事業推進担当 岡田洋課長

路線が無い福島区や北区にも弊社情報誌「K PRESS」を毎月配り歩くという活動も続けており、地元の方々に喜ばれています。やはり、弊社社員が直接お伺いし、顔を合わせてお話を頂くことでご縁が生まれ、イベント等色々なことにご協力頂けるようになり、地道な活動が花開いたと実感しました。今後このご縁を大切に、地域の魅力を高めていきたいと思ひます。

大阪、中之島の魅力創出で連携を

**池本** 私が所属する部署では、全世界に向けて、大阪国際会議場だけでなく大阪の魅力もPRし、国際会議の誘致を推進しています。コンベンションにはエクスカッションがついてきますし、ユニークベニューと云って、美術館や博物館、城郭などを会議やレセプション会場とすることで、地域の魅力を伝え国際会議の誘致につなげることもあります。今回のようなアートイベントなど、地域活性化による大阪、中之島の魅力創出は、国際会議の誘致活動の一環としても非常に重要です。

**岡田** 大阪国際会議場さんが地域貢献活動をされているとは知りませんでした。今回、そうした姿勢をお持ちだということがよくわかりました。他の企業さんからはよく、「地元還元したいが何をしたらいいのかわからない」というお声をいただきます。

逆に私たちは、イベント会場の確保に困ることがありますので、今後も大阪国際会議場さんとは連携していきたいですし、多くの企業さんと一緒にできたら、と思っています。

**池本** 大阪国際会議場としても、中之島線をつくってくださったおかげで、直結の駅ができアクセスがスムーズになりました。会場には世界各国、全国各地からお客様が、来られます。お客様にも、京阪電車に乗れば京都まで1本で行けますよ、とお伝えしています。今後も京阪HDさんとより連携を強めて、ともに中之島の魅力を高めていきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。



株式会社大阪国際会議場  
営業部誘致開発課長 池本奈穂

「先覚の志、ここに成る」と読む。「先覚の志、ここに成る」と読む。昭和38年、天満橋から淀屋橋まで地下路線で延伸した際、京阪電鉄の社長であった村岡四郎氏が揮毫したものである。京阪電鉄は、創業以来の宿願であった大阪都心部への乗り入れを、ようやく実現した。多くの先輩たちの想いを繋ぎ、ここに志を達成できたことへの万感の想いが込められている。

平成20年10月、天満橋の碑と呼応するように、中之島線の開通を記念するモニュメントが中之島駅のホーム階に据え置かれた。「坂陽日々新」の五文字は、関西経済連合会の会長職を長く務め、「中之島まちみらい協議会」の会長職にあった秋山喜久氏の筆になるものだ。

「坂陽日々新」は、「はんよう、にちにち新たなたり」と読む。「坂陽」すなわち大阪は、仁徳天皇が難波に都を置いて以来、世界への扉、さらには燦爛たる商都として、

中之島 トリビア

坂陽日々新

NAKANOSHIMA TRIVIA

第2回

京阪電鉄天満橋駅のホームに「先覚の志、ここに成る」と読む。「先覚の志、ここに成る」と読む。



京阪電鉄中之島線「中之島」駅構内にある「坂陽日々新」の碑文。

股賑を極めてきた。中之島線という東西を結ぶ新たな鉄路を得て、大阪はこれからも日々、新しく変貌することだろう。そういう未来に向けたメッセージである。2025年の大阪・関西万博の開催、なにわ筋線の整備などを控える大阪にとっては、南北軸だけではなく東西軸が、いっそう重要な役割を担うことになる。私たちも、先達の志に感謝しながら、日々、フレッシュな気持ちで中之島での日々を豊かに過ごしたい。中之島は未来に向けて発展する。「中之島、にちにち新たなたり」である。



橋爪紳也 Shinya Hashizume  
大阪府立大学研究推進機構特別教授  
大阪府立大学観光産業戦略研究所長

# PLAYBACK GRANDCUBE

2000年の開業から来年で20周年を迎える大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)。4回に渡って過去20年間を振り返る本連載の第2回目は、開業直後から2005年までの歩み。「ミレニアム」から「21世紀」へという、新たな時代への転換期を迎え、未来への期待を反映した様々なイベントが開催された5年間でした。



## 2000年9月(平成12年)

大阪府立国際会議場オープニング記念事業

### 「新世紀・大阪国際フォーラム」実施

4月1日の開業以降、学会のフォーラムや有名アーティストのコンサートなど、開業ラッシュの様々なイベントが続々と開催される中、9月26日に公式オープニング記念

#### 「新世紀・大阪国際フォーラム」

平成12年9月26日(火) 午後1時~6時  
 場所: 大阪国際会議場メインホール  
 主催: 大阪国際会議場オープニング記念事業実行委員会  
 テーマ: 「これまでの人類 これからの地球」  
 参加者数: 約1,500名

#### 【プログラム】

- 主催者代表挨拶: 太田房江 大阪府知事
- 地元歓迎挨拶: 磯村隆文 大阪市長
- ウェルカムスピーチ: 中曽根康弘 元首相(チェアマン)
- リレー講演  
 リハルト・フォン・ワイツゼッカー(元ドイツ大統領)  
 マルコム・フレイザー(元オーストラリア首相)  
 ロバート・A・スキャラビーノ(カリフォルニア大学バークレー校名誉教授)
- パネル・ディスカッション  
 コーディネーター: 川勝平太(国立国際日本文化研究センター教授)  
 パネリスト: 講演者の3名
- 記念講演  
 呉 善花(評論家) 「日韓新時代~ワザビ文化と唐辛子文化」
- 「大阪宣言」発表: 川勝平太

事業として、「新世紀・大阪国際フォーラム」を実施。大阪府知事、大阪市長、そして中曽根康弘元首相、リハルト・フォン・ワイツゼッカー元ドイツ大統領他、内外の政界・学界の著名人を迎え、前夜の歓迎晩餐会、フォーラム当日のリレー講演、パネルディスカッション、記念講演等が行われました。



写真は「大阪府立国際会議場 開業記念式典」(2000年3月25日開催)の様様

## 2000-2005年

年間平均来館者 **84万人** 達成

#### 【主な催事】

2000	3/25	大阪府立国際会議場 開業記念式典
	4/1-3	第64回日本循環器学会学術集会
	4/9	開業記念冠事業
	9/26	「新世紀・大阪国際フォーラム」
2001	7/20-29	ロボフェスタ関西2001
2003-2005		オーパバルinJAPAN
2003	1/30	Visual Contents Mart in KANSAI 審査会
2003	3/16-22	第3回世界水フォーラム
2005	11/12-15	117th IATA Conference

#### 【主なコンサート】

2000	5/7-8	浜田省吾コンサート
	5/22	かぐや姫コンサート
	6/26-27	玉置浩二コンサート
	7/22	藤井フミヤConcert Tour 2000
2001	10/7-8	長瀬剛コンサートツアー
2002	5/6-7	小田和正コンサート
2004	3/4-5	安室奈美恵コンサート
	3/22	GLAYコンサート
	3/23-24	中島美嘉コンサート
2005	3/19-20	T.M. Revolutionコンサート
	10/7	スキマスイッチ TOUR'05



#### EPISODE 02

### ミレニアムの時代を反映したイベントたち

この時代に開催されたイベントの特徴には、新たな世紀への期待を込めたものが多くありました。その中でも、2003年から2005年の3年間、新年初頭に開催された「オーパバル・イン・ジャパン」は、ミレニアムの時代を彩るものとして特に記憶に残るものです。「オーパバル」とは、ヨーロッパの若者たちが社交デビューするためにウィーン国立劇場で毎年未だに開かれる大舞踏会。グランキューブ大阪5Fメインホールを会場とし、大阪センチュリー交響楽団の華麗な調べに乗せて、関西学生競技ダンス連盟に属するデビュタント(新成人)50組100名による「成人への夢のデビュー」と題する大舞踏会が、華やかかつ盛大に繰り広げられました。



#### EPISODE 01

### 新旧トップアーティストが次々コンサート開催

グランキューブ大阪では、開業初年から多くのアーティストのコンサートが開催されてきました。そのラインナップには新旧の世代が反映されています。たとえば、開業翌月には、浜田省吾、かぐや姫といった70年代から活躍するフォークのレジェンドが登場。その後も続々とトップアーティストの公演が続きます。そして2004年以降は、安室奈美恵、GLAY、中島美嘉、T.M. Revolution、スキマスイッチと、それぞれの時代を映す第一線のミュージシャンたちのコンサート会場として選ばれました。(敬称略)



#### 《電車》

- 京阪中之島線「中之島(大阪国際会議場)駅」(2番出口)すぐ
- JR大阪環状線「福島駅」から徒歩約10分
- JR東西線「新福島駅」(2・3番出口)から徒歩約10分
- 阪神本線「福島駅」(3番出口)から徒歩約10分
- 大阪メトロ「阿波座駅」(中央線1号出口・千日前線9号出口)から徒歩約15分

#### 《バス》

- JR「大阪駅」駅前バスターミナルから、大阪シティバス(53系統 船津橋行)または(55系統 鶴町四丁目行)で約15分、「堂島大橋」バス下車すぐ
- シャトルバスが、「リーガロイヤルホテル」とJR「大阪駅」桜橋口の間で運行しており、ご利用いただけます(定員28名)
- 中之島ループバス「ふらら」で地下鉄・京阪「淀屋橋駅」(4番出口・住友ビル前)から約15分

## 株式会社 大阪国際会議場

OSAKA INTERNATIONAL CONVENTION CENTER CORP.  
 〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3番51号  
 Tel.06(4803)5555(代表) Fax.06(4803)5620



GRANDCUBE PRESSは、地球にやさしい広報誌。この印刷物は環境に配慮した植物油インクを使用しています。